

茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和元年(2019年)8月

1 東京都中央卸売市場(2019年1-7月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約107万tで、前年並、金額は約3,012億円で前年比7%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約14万tで、前年並、金額は約318億円で前年比11%減となった。
(金額の内訳は、野菜約258億円、果実約60億円。前年同期比で野菜12%減、果実3%減、平年同期比で野菜11%減、果実1%増)
金額が【増加】した品目(前年対比)：レタス類(108%)、いちご類(105%)
金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(43%)、みず菜(70%)、こまつな(81%)、メロン類(95%)
- ③ 茨城県の青果物入荷量は平年比1%減(シェア12.6%)、取扱金額は同9%減(シェア10.6%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-7月計)			
	1-7月計	年間計	年間比	1-7月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2019	1,071,469		135,437	←シェア(12.6%)		12.9%	5.8%	3.6%	
	H30	1,070,110	1,907,279	56.1	135,270	225,946	59.9	12.6%	6.5%	3.7%
	(前年比)	100			100	シェア(12.6%)				
	平年値※	1,108,559	1,978,757	56.0	136,338	228,350	59.7			
	(平年比)	97			99	シェア(12.3%)				
金額	2019	301,202		31,786	←シェア(10.6%)		8.4%	3.2%	7.0%	
	H30	325,587	568,808	57.2	35,650	56,745	62.8	8.9%	3.0%	6.5%
	(前年比)	93			89	シェア(10.9%)				
	平年値※	321,987	563,980	57.1	34,793	57,101	60.9			
	(平年比)	94			91	シェア(10.8%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5年平均。
※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
平成30年実績
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)
千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)
北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)
栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

2 東京都中央卸売市場(令和元年7月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約13.7千トン(106%)、単価は297円(97%)、金額は約40.7億円(103%)

果実類の入荷量は約1.5千トン(93%)、単価は227円(73%)、金額は約3.5億円(68%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	ねぎ	2,212	101%	97%	98%	362	103%	97%	97%	801,742	104%	95%
	ピーマン	1,051	105%	100%	98%	404	89%	116%	118%	424,764	94%	116%
	とうもろこし	1,892	116%	110%	93%	214	101%	108%	109%	405,779	118%	119%
	ばれいしょ類	1,774	119%	98%	90%	170	266%	122%	115%	300,872	314%	119%
	野菜総計	13,721	106%	98%	98%	297	97%	103%	96%	4,070,391	103%	100%
果実	メロン類	546	141%	97%	106%	281	82%	108%	94%	153,478	117%	104%
	果実総計	1,542	93%	91%	87%	227	73%	97%	110%	350,764	68%	88%

(野菜)

本年は梅雨が長く曇天が多かったため、果菜類を中心に入荷が不安定となった。猛暑で入荷量が減少した昨年に比べると多いが、平年をやや下回った。

本県産のとうもろこしは、遅れていた6月出荷分が出たことと作付増により前年・平年を上回る数量となり、金額を伸ばした。ばれいしょ類は、長崎県・静岡県産の残数が少なく、大幅安となった昨年に比べ高単価で推移した。

(果実)

凍霜害などの影響を受けたもも類・すもも類の入荷量が減少し、果実全体の入荷量も前年・平年を下回った。すいか類は消費地で低温が続く、数量は少なかったものの単価が伸びなかった。

本県産のメロン類は、春メロンが前進化して切り上がりの早かった前年と比べると数量増の単価安傾向となったが、平年比では数量減の単価高であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出